

国際文化観光・スポーツ常任委員会県内調査報告書

令和 4 年 8 月 26 日（金）に、「観光に関する事項」及び「スポーツに関する事項」について調査を実施したところ、その概要は次のとおりでした。

神奈川県議会議長 しきだ 博 昭 殿

国際文化観光・スポーツ常任委員会委員長 栄 居 学

国際文化観光・スポーツ常任委員会
県内調査報告書

令和4年8月26日（金）

1 調査の概要

- (1) 調査箇所 京浜急行電鉄株式会社、湘南港
- (2) 出席委員 栄居委員長、山本副委員長
高橋(延)、河本、加藤(元)、内田、森、菅原(あ)、古賀、渡辺(ひ)、
曾我部、さとう(知) の各委員
- (3) 調査日 令和4年8月26日(金)

2 京浜急行電鉄株式会社

(1) 調査目的

京浜急行電鉄(株)を含め京急グループは、都市近郊リゾートみうらの創生として、三浦半島の資源を最大限活用すべく、行政・企業・大学・地元と連携し、エリアの価値を共創する事業を行っている。

この事業は、エリアマネジメントによるエリア価値の向上、定住人口増加及び交流人口(観光、回遊性)の3つを具体的整備方針とし、交流人口増加(観光、回遊性)については、地域事業者との連携、官民連携事業への参画及び油壺地区における観光ハブ拠点の整備を行っている。

本県では、国際文化観光局の主要事業に「観光資源の発掘・磨き上げ」を位置づけており、具体的には、城ヶ島・三崎地域を対象として観光の核づくり推進費補助を行うことで、国内外の観光客の誘致を推進し、地域経済のさらなる活性化を図るための取組を行っている。

そこで、京浜急行電鉄(株)が行う事業について調査をすることにより、観光資源の発掘・磨き上げに係る委員会審査の参考に資する。

(2) 主な説明項目

ア 都市近郊リゾートみうらの創生の概要及び油壺エリアの再整備計画について

三浦半島は、都心から1時間圏内のアクセス性及びバラエティに富む観光資源を有することから、年間1,600万人が来訪する観光地である。社会情勢の変化に伴う事業姿勢の転換が求められる中で、京急グループは、行政・企業・大学・地元を繋ぐ「コミュニケーションハブ」へと役割を切り替え、三浦半島における様々な課題に取り組み、価値の向上につなげる取組を行っている。

具体的には、古民家を活用したホテル事業に対する事業化支援などを行うことにより、高価格帯の宿泊と食事にお金をかけられるカップル及び主婦層をターゲットとした滞在型観光の拠点づくりなどを行っている。

イ 三浦COCOON～地域とつくるエリアマネジメントとMaaS～について

三浦半島の観光事業者が共通で使える予約決済基盤の提供を行っている。現時点で、地域のアクティビティの料金や情報が一元的に確認できるWEBサイト開設及び多様なアクティビティや企画きっぷをワンストップで予約、決済することが可能となっており、MaaSレベル2まで実現されている。今後、料金体系まで含めた地域統合の提供（レベル3）、データやAIの活用によるエリアマネジメントを通じて、地域が抱える社会課題を解決（レベル4）までMaaSレベルを引き上げる予定である。

また、モビリティ基盤の整備も行っており、郊外の課題である駅からの2次交通が少なくマイカーが中心であること、慢性的な交通渋滞、アクセスの悪さを解消すべく、モビリティ業者と地域店舗をマッチングする取組を行っている。

ウ 京急油壺温泉キャンプパークの開設・営業状況について

油壺地区の再開発までの間、施設の老朽化などにより2021年9月に閉館した京急油壺マリナーパークの跡地を活用したアクティビティスポットとして、京急油壺キャンプパークを2022年1月24日にオープンした。

コロナ禍におけるアウトドアブームも追い風となり、順調な営業状況を継続している。三浦半島にキャンプ場が少ないこと、都心からのアクセスが良好であること、日帰り温泉が隣接し、キャンプ初心者からファミリーが利用しやすいという優位性がある。キャンプ場は休日利用が中心であるという性質上、全国キャンプ場の平均稼働率は30%強であるところ、本キャンプ場は、開業時12区画から現在20区画と区画数を増加させた上で、平均55%ほどの高い稼働率を維持している。

(3) 主な質疑応答

質 疑 三浦COCOONをアプリでなくブラウザベースのサービスとして展開しているとのことであるが、その利点はあるのか。

応 答 スマートフォンのトップ画面はアプリの取り合いになっている。年に1度の訪問が多い観光地のためにアプリをダウンロードすることは、観光客にとって心理的障壁になる。ブラウザであれば、その壁がなく利用できるという利点がある。

なお、この取組が沿線に広がることによって、日常的な利用が想定されることから、その場合にはアプリを開発する可能性もある。

質 疑 京急沿線を中心とした開発について話を伺ったが、江の島や鎌倉などの他の観光地との連携はどのように考えているか。

応 答 当面は、沿線である品川から三浦、品川から羽田、羽田から三浦により形成される三角形を中心に取組を進めていく。

ただ、試験的ではあるが、県内の人気観光地である鎌倉と三浦への

移動についての取組を進めている。

なお、鎌倉市はCOCOONファミリーであるため、一緒に取組を進める関係である。

質 疑 都心からのアクセスが良い観光地は千葉県、埼玉県などにもあることから、三浦ならではの特徴を出すべきだと考えているがその点についてはいかがか。

応 答 今は、マグロなどが有名だが、観光施設の老朽化が課題である。今後は、城ヶ島に温泉旅館を誘致しており、西海岸沿いを高級リゾートエリアにリブランディングすることで、若い世代やファミリー層の誘客をし、アクティビティやマグロや大根などの食を楽しんでいただくようにしたい。

質 疑 実際の三浦COCOONではアクティビティの紹介などが掲載されているが、高齢者などはここに掲載することが難しいということが考えられるが、ここに掲載するにあたって何か障壁となった点、難しかった点はあったか。

応 答 確かに年配者に向けた取組という点は課題があるので段階的に解決していきたい。

COCOONファミリーとは緩やかな連携をとっていったため、三浦COCOONへの掲載にあたっての障壁はあまりなかった。

システムの利用に対して費用が掛かることを懸念して掲載をしていない事業者の方がいるが、掲載自体で費用は掛からないため、掲載も増えてくると考えられる。

また、予約決済機能では旅行代理店の大口客や電話予約の管理についても対応できるようにしており、事業者利便向上のためのサービスの提供ができています。

質 疑 複数の施設などを掲載することによる相乗効果があったとの声が利用者からあったか。

応 答 みさきまぐろきっぷのデジタル化により、従来は対象にできなかったアクティビティも当該きっぷの対象とすることができた。その結果、マリンスポーツ事業者から集客につながったとのことのお礼を言われることがあった。これからも、デジタル化の取組を進め、相乗効果を狙っていきたい。

質 疑 この取組に対して、県はどのような協力をしているのか。

応 答 県としては、油壺地域をも対象とした、いざ、神奈川！デジタルラリー～鎌倉殿×13人の御家人たち「ゆかりの地」めぐり～を開催し、観光客の誘客を行うとともに、PRをするなどして協力をしている。

質 疑 県として地域の事業化支援に対して協力をすることはしないのか。

応 答 県庁としては、様々な部局がクロス・ファンクショナルでの協力をしている。国際文化観光局としては、今後観光客に係るデータ収集をするので、それを提供するなど橋渡しの役割を果たし、三浦半島地域活性化に寄与していきたい。

質 疑 県に対して何かして欲しいという要望はあるか。

応 答 国際文化観光局は、三浦COCOONに関する窓口として活躍してもらったとともに、デジタルスタンプラリーの開催など観光客の接続面でも活躍してもらっている。ほかにも、政策局や環境農政局との連携を行っている。引き続き各方面での連携をお願いしていきたい。(国際文化観光局職員が応答)

質 疑 若者の車離れがある中で、若者は電車で訪問することがあると考えるが、電車の延伸計画については考えているか。

応 答 電車の延伸計画については取り下げている。三浦半島が近いというよりは、その中で簡単に移動していただくための、具体的には、1キロメートルくらいの移動をスムーズに行えるような乗り物について地域連携で順次整備を行っている。

質 疑 三浦市の問題は、宿泊スペースが少ないという部分があると思う。今後、シープロジェクトの展開を三浦から横須賀、あるいは東京湾などに広げていく方策が必要だと考えるが、政策局とはどのような話をしているのか。

応 答 海上交通の課題は、認知の問題と天候による欠航率が高いなど、交通手段としては難しい点である。今回は、今までなかった予約機能などを提供できるようになったので、それを使ってもらえないかという提案ができると思う。

また、葉山女子旅きっぷなどの企画乗車券などがあり、それが観光への入口として使ってもらっているのでそれを周遊のきっかけにしていきたい。課題としては、帰りの乗車券があるのに宿泊するとそれが使えないという点がある。

(※ 上記以外の質疑については、現場視察中に随時行われた。)



(4) 調査結果

京浜急行電鉄(株)を含む京急グループが行っている都市近郊リゾートみうらの創生について、その概要や現在行っている取組、今後の見通しについて調査をすることができた。今後、当該取組が推進されることによって三浦半島地域に滞在型の観光客の増加が見込まれるとともに、この取組が県内に広がることによって観光立県かながわの実現が期待される。

以上のように、京浜急行電鉄(株)を調査したことにより、本県の今後の施策を審査する上で、参考に資することができた。

3 湘南港

(1) 調査目的

本県では、スポーツ局の主要事業として、東京2020大会を契機としたスポーツの普及推進、レガシーの創出・継承を位置づけており、これまでに東京2020大会の感動や記憶を後世に伝える記念碑として、江の島を訪れる幅広い世代の人々に末永く親しんでいただくため、競技会場となった湘南港に東京2020大会・セーリング競技開催記念モニュメントや銘板を設置した。

そこで、当該モニュメント等を調査することにより、東京 2020 大会のレガシーの創出・承継に関する取組に係る委員会審査の参考に資する。

(2) 主な説明項目

ア 湘南港ヨットハウス前銘板について

セーリングの最大の特徴である帆を連想させるデザインで、競技会場でしか使えない SITE OF OLYMPICS GAME のマークを盛り込み、東京 1964 大会と東京 2020 大会の概要を記載している。

イ 江の島ヨットハーバー内モニュメントについて

2020年1月25日の設置から2021年9月13日までの間、江の島弁天橋北側入口に設置していたものを、同年11月27日以降、東京1964大会のモニュメントの横に移設した。

本体は、セーリングの帆をイメージし、風を受けた帆の膨らみや傾きをテラコッタと呼ばれる耐候性及び耐久性が高い焼き物で表現しており、台座は真鶴町産の本小松石を用いている。

ウ 湘南港ヨットハウス2階の銘板について

湘南港ヨットハウス2階のオリンピックメモリアル入口には各種目の金メダルと日本代表選手を記載した東京 1964 大会の記念銘板が設置されていることから、2度の大会の連続性が感じられるよう、それと同内容、同素材で作成した。

(3) 主な質疑応答

質 疑 モニュメントや銘板の設置以外に、東京2020大会のレガシーを承継するための取組は行っているか。

応 答 県では、機運醸成のための取組を行っている。オリンピックのセーリング競技が2度江の島で開催されたことから、10月15日及び16日に開催される江ノ島オリンピックウィークに合わせたイベントの開催や、セーリング体験会を行うことで、オリンピックのレガシー承継のみならず、セーリングの普及を推進する。

(※ 上記以外の質疑については、現場視察中に随時行われた。)



(4) 調査結果

湘南港では、東京2020大会のレガシー承継のための取組を、東京1964大会開催記念の銘板などとの連続性をもって行っている。江の島は、2回のオリンピックが開催された地であるとともに、多くの人々が訪れる人気観光地であり、そのレガシーの承継のための取組は有効であると考えられる。

以上のように、湘南港における東京2020大会のレガシー承継のための取組を調査したことにより、今後の施策を審査する上で参考に資することができた。

<参 考>

1 随 行 者 川島主事（議会局議事課）、内田副主幹（国際文化観光局総務室）、
本島副主幹（スポーツ局総務室）

2 調査箇所側出席者

(1) 京浜急行電鉄株式会社

京浜急行電鉄(株)生活事業創造本部副本部長、同部開発事業部長、同部開発事業部課長、同部まちづくり統括部課長、同部事業統括部課長、田熊国際文化観光局副局長兼総務室長、田中観光振興担当部長、渋谷観光課長、重田観光プロモーション担当課長、鎌倉国際文化観光局企画調整担当課長

(2) 湘南港

三枝スポーツ局長、田中スポーツ課長、矢島スポーツ局管理担当課長